

川崎重工業株式会社

広報部【東京】Tel. (03)3435-2130 【神戸】Tel. (078)371-9531 www.khi.co.jp

NO.2010005

2010年4月21日

各 位

会社名 川崎重工業株式会社
代表者名 取締役社長 長谷川 聡
コード番号 7012 東京 大阪 名古屋
問合せ先責任者 経理部長 松原 秀幸
問合せ先窓口 広報部 (TEL 03-3435-2130)

平成22年3月期 業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

川崎重工は、平成22年1月29日に公表した平成22年3月期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の業績予想の修正、並びに特別損失の計上について、下記のとおりお知らせします。

記

1. 平成22年3月期業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成22年1月29日発表）	百万円 1,180,000	百万円 5,000	百万円 10,000	百万円 3,000	円 銭 1.79
今回修正予想（B）	1,173,400	1,300	14,200	10,800	6.47
増減額（B - A）	6,600	6,300	4,200	13,800	
増減率（%）	0.5%	-	42.0%	-	
（ご参考）前期実績 （平成21年3月期）	1,338,597	28,713	38,718	11,727	7.02

修正の理由

平成22年3月期の連結業績は、売上高についてはほぼ前回公表した予想どおりとなる見込みです。営業利益については、汎用機事業において米国市場低迷の長期化による販売競争激化の影響を受けたほか、一部の製品について納期変更や採算性低下等の影響があり、前回公表した予想を下回る見込みです。経常利益については、期末為替レートが想定（1ドル＝90円）より円安となったことに加え、持分法投資利益の好転や費用の一部を特別損失に計上することとなった影響などにより、前回公表予想を上回る見込みです。

なお、特別損失として事業構造改善費用や固定資産の減損損失などを計上し、また、一部の連結子会社において繰延税金資産を取崩すため、当期純利益については前回発表予想を下回る見込みです。

2．特別損失の計上について

汎用機事業においては、想定以上の市場縮小に対応するため積極的に在庫調整を進めてきましたが、米国市場低迷の長期化に伴い販売競争が激化しているため、在庫調整を更に加速し早期に流通在庫を適正水準まで引き下げる必要があると判断しています。このため、本日開催の取締役会において過剰在庫の解消に必要な費用の見積額を事業構造改善引当金に計上するとともに、当該引当金繰入額 6,326 百万円を事業構造改善費用として特別損失に計上することを決議しました。

また、米国所在の連結子会社を中心に実施した固定費削減を目的とした従業員の早期退職に係る費用 1,321 百万円についても、事業構造改善費用に含め特別損失に計上することとしています。

更に、市場環境の悪化に伴い業績が悪化した一部の連結子会社において固定資産の減損損失を認識し、3,132 百万円を特別損失に計上することとしています。

なお、連結業績に及ぼす影響額は上記のとおりですが、これに第 3 四半期までの既計上額と第 4 四半期におけるその他の計上額を加えた通期の特別損失総額は、19,651 百万円となる見込みです。

以 上